

品質保証 ひんしつほしょう

Q A (Quality Assurance)

一般的に、品質保証とは、工場などで商品を製造する際、製造の部門・プロセスごとに責任者を明確にしたり、製造の記録を残したり、問題点が発見された時に組織内で意見交換をしたりすることなどにより安定的に高い品質の製品を製造しようとする取組のことをいいます。

ISOの規格が事実上の統一規格となってきました。

ISO（国際標準化機構）

モノやサービスの流通を促進するため、国際的標準規格を作成する組織で、1947年設立。およそ140の国・地域がこれに加盟している。1987年にISO9000シリーズとよばれる品質保証規格を制定した。その特徴は企業の品質管理システムを重視していることで、事業所内での品質管理規則や管理専門部署の業務などを含むシステムを、一定の審査登録機関が検査したうえで認証する。ISOの規格に法的強制力はないが、最近では事実上の統一規格になってきている。そのため日本企業としても、輸出対策の一環として認証取得の努力をしなければならなくなった。日本ではJIS（日本工業規格）があるし、QC（品質管理）活動も盛んであり、製品そのものの品質には自信を持っている企業も多い。しかし、品質保証システムの標準化が遅れ、その弱点をISOによって突かれた格好になった。最近では環境保全のための規格ISO14000シリーズが注目を集めている。

品質保証システムを導入すると

- ・組織の長の方針の下、全ての職員が
 - 1) 業務手順が品質システムとして構築され、
 - 2) その通り実行し、
 - 3) 効果的に運用され、
 - 4) 実行の記録が保存される。
- ・定期的なサーベランスで
 - 1) 品質マネジメントシステムの適合性と、
 - 2) 効果的に実行され、維持されているかを、
第三者審査機関（認証機関）の審査により確認される。
- ・結果として
 - 1) 顧客ニーズに合致した均質な製品・サービス提供が実現する。
 - 2) 継続的な品質システム維持と組織イメージUp、
ひいては効率向上につながる。

原子力発電所では、安全性を確保するとともに信頼性を一層向上し、地域住民（一般公衆）及び発電所従業員の健康の維持と電力の供給安定性を確保するための品質を達成する目的で、この考え方を応用したシステムを構築しています。

発電所の品質保証は**安全保証**です。

柏崎刈羽原子力発電所では、従来から、民間指針に基づいた品質保証活動を行い、原子力発電所の安全確保に努めています。

民間指針

「原子力発電所の品質保証指針 (JEAG4101)」

日本電気協会が制定した民間指針であり、IAEA（国際原子力機関）の規格に準拠し、原子力発電所の設置者、設計者、機器供給者、建設に携わる者、製造者、運転員等全ての要員および組織に適用される体系的に整備された品質保証に関わる指針です。

今回の事件の反省として、今後、より一層の品質保証活動の客観性・透明性の向上および所員一人ひとりの品質意識の効用を目指す必要から、東京電力は第三者である審査登録機関の認証（ISO 9 0 0 1）を取得するとしています。

「原子力発電所の品質保証指針」による規格を「ISO 9 0 0 1」による規格に置き換える作業は膨大なものでありますので相当な時間を要すと考えられますが、客観性・透明性を確保するには、あらゆる業種・業務に適用できる品質保証規格にする必要があります。

「地域の会」の皆さんの現況確認ももっと分かりやすくなると思いますが、しばらくは現行のシステムによる確認をお願いします。

地域の会が発電所の透明性を確保するためには、

- ・ **トラブル発生時**

トラブルに関連する品質保証の記録や現場をチェックし、品質保証システムに不備がないか確認し、不備については是正を求める提言をすることが有効です。

- ・ **通常時**

任意のシステム（例えば、放射性廃棄物の管理状況）を指定して、記録や現場をチェックし、システムに不備がないか確認することが有効です。

今回実施した、超音波探傷検査記録の確認は好例です。